

行政視察等報告書（個人用）

平成30年10月17日

知立市議会議長 様

報 告 者	山田 圭 （市政会）
日 時	平成30年10月11日（木）・12日（金）
視察（研修）場所	新潟県長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡
目 的	第80回全国都市問題会議
<p>【概 要】</p> <p>テーマ 「市民協働による公共の拠点づくり」</p> <p>●かつて各地に存在した共同体では、住民同士が協力して地域の課題に取り組んでいた。その後、社会の変化に伴い、共同体は弱体化していったが、その一方で、近年、市民の能力や自己実現に対する意欲を背景に、市民活動が活発化している。自治体も、市民活動に期待を寄せている。1990年代以後、市民協働の推進が行政の重要な課題となっている。そこでは、「市民と行政または市民同士が、お互いの長所……市民活動の自由・自発性と行政活動の公平性……を」持ち寄り、短所を補い合うことで課題が解決し、魅力的なまちづくりを進めることが目指されている。かつての共同体における住民同士の協力は、人々が住む地区という固定的な場において行われてきた。しかし、市民がほかの市民や行政と自発的に結びつき、つながろうとするのであれば、それにふさわしい場のあり方が必要である。ここでは、そうした市民協働を実践する場を「公共の拠点」と呼ぶ。自治体が一方的に公共の拠点を整備するだけでは、市民の多様なニーズに応えることができず、市民活動や協働の充実につながらない。公共の拠点づくり自体、市民と行政との協働により進めていく必要がある。</p> <p>●市民協働による公共の拠点とは何か</p> <p>●なぜ今、市民協働による公共の拠点づくりを進めるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動に参加しやすい時代の到来 ・都市間交流の進展 ・空き施設の増加 <p>●市民協働による公共の拠点づくりに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働に携わる人材の育成 ・公共の拠点となる場所の活用 ・まちづくりでの取り組み <p>●これまで見てきたように、「市民協働による公共の拠点」には様々なものがある。選択する手法やその組み合わせ方は、地域の状況によって千差万別であろう。このため、首長や職員、議会には、地域や課題をふまえて取り組むことが強く期待されている。そのことが地域の魅力を引き出すことにつながるはずである。今回の会議では、市民協働による公共の拠点づくり、ひいては市民協働による地域づくりを各地で進められるよう、これまで述べてきた「市民協働に携わる人材</p>	

の育成」、「公共の拠点となる場所の活用」や「まちづくりでの取り組み」を」念頭に置いて、市民や市民団体の活動とこれに対する行政の連携・支援のあり方、さらには今後の地域社会のあり方などを展望しながら、議論を深めたい。

10月11日(木)

■基調講演 「地方分権のまなざし」 東京大学史料編纂所教授 本郷和人

①日本は昔から中央集権か？

②貨幣を例に

③地方行政の形骸化

④地域の特色

⑤武士と地方

★本当に言いたいこと

・江戸時代 300 諸侯

それぞれの藩、それぞれの地域で教育があり、英才が育てられた。

・黒船が生み出した「明治維新」

世襲に囚われず、才能を登用する。

「立身出世」をよしとする ⇒ 各地の英才が東京に集まる。

万世一系の天皇を核とする、強力な中央集権が図られ、列強に対抗する。

・明治の達成は高く評価するとして、それは 300 万人の犠牲を出した、太平洋戦争に直線的に結びつくのか否か。過度な受験秀才の重用をどう捉えるか

・日本の歴史「黒船」が来ない ⇒ 弛緩する

たまた「黒船」が来襲する ⇒ 変革を志す

・現代の黒船はなにか？（私は人口減少だと思っている）

今こそ、明治の中央集権とは逆に、地方の自治権を強く後押しするべきではないか。

地方からのボトムアップこそが、新しい日本を変えていく。

■主報告 「長岡市の市民協働」 新潟県長岡市長 磯田達伸

長岡市 人口 271, 686 (平成30年7月1日現在) 面積 891, 06 km²

○長岡市の歴史

○長岡市の市民協働

・市民協働の推進

・市民協働の場「アオーレ長岡」

・観光交流拠点における市民協働

○長岡市の人づくりと未来への投資～新しい米百俵～

・若者が活躍できるまちづくり

・「^{ナデック}NaDeC構想」の推進

・長岡市の将来像～長岡版イノベーションの推進

■一般報告 「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

三重県津市長 前葉泰幸

1. 住民自治の伝統
2. 公共施設マネジメントにおける市民との意思疎通
 - <ミッション1>合併を決断した住民が目指した公共施設を作り上げろ！
 - (1)津市斎場「いつくしみの杜」
 - (2)津市一般廃棄物最終処理場
 - <ミッション2>公共施設の「不都合な真実」をあぶり出し、向き合え！
 - (1)津センターパレスビル
 - (2)ポルタひさいビル
 - <ミッション3>市民との対話から聞き取った思いや願いを反映した公共施設を作れ
 - (1)義務教育学校「みさとの丘学園」
 - (2)認定こども園「津みどりの森こども園」
 - <ミッション4>すべてをオープンにし、とことん議論して公共施設を再編せよ！
 - (1)一身田公民館
 - (2)新町会館
 - (3)安濃庁舎周辺公共施設の再編
3. これからの公共施設マネジメント

■一般報告 「場所の時代」

建築家・東京大学教授 隈 研吾

1. 場所を主役とする時代の到来
2. 都市主義の終焉としての“3.11”
3. 小さなエレメントによる建築
4. 大きい建築を場所へつなぐこと

10月12日(金)

■パネルディスカッション 「市民共同による公共の拠点づくり」

コーディネーター 明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授
牛山 久仁彦

○シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える「拠点」

1. シビックプライドとは？
2. シビックプライドの表れ
3. コミュニケーションポイント
4. 「市民共同による公共の拠点」とコミュニケーションポイント

パネリスト NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長
奥山 千鶴子

○子育て支援からみた公共の拠点づくり

1. 子育て家庭の流動性とアウェイ育児
2. 地域子育て支援拠点事業の概要
3. 横浜市の地域子育て支援拠点における協働の位置づけ
4. 横浜市の協働の歩み
5. これからの子育て支援拠点の役割
6. まとめ

コーディネーター 長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
羽賀 友信

○長岡の市民主体のまちづくり

1. 団体自治から住民自治へ
2. 市民センターからアオーレ長岡・ながおか市民協働センターへ
3. アオーレ長岡の役割
4. 今後の展望

コーディネーター 埼玉県和光市長 松本 武洋

○地域包括ケアを支える新たな拠点づくり —NPO との連携—

1. 本市の紹介
2. 本市の概要
3. 和光市における市民協働による公共の拠点づくり
4. 新たな展開
5. おわりに

コーディネーター 高知県須崎市長 楠瀬 耕作

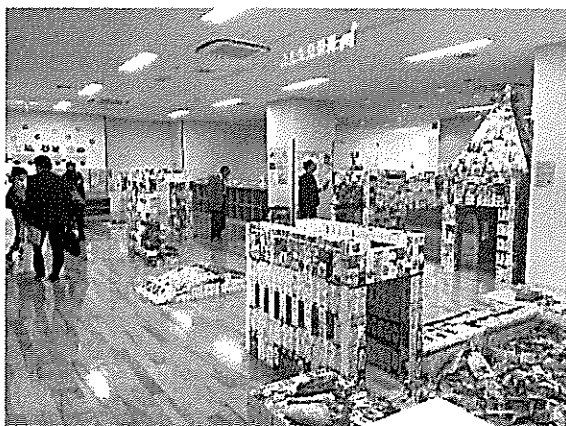
○人・モノ・金の好循環を目指して

1. 須崎市の紹介
2. 持続可能なまちづくりに向けて

■行政視察 13:00～

アオーレ長岡（議場ほか）・・・まちなかキャンパス長岡

・・・子育ての駅ちびっこ広場・・・NaDeC BASE・・・長岡駅



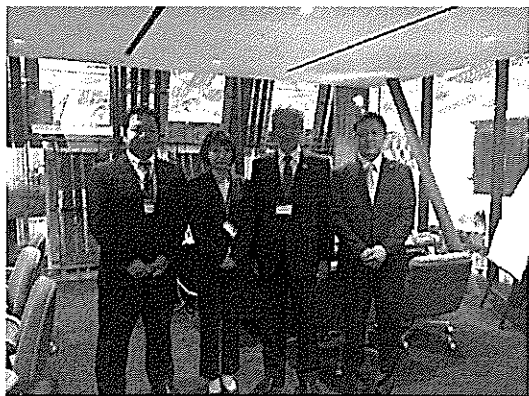
【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

今回の都市問題会議のテーマである「市民協働による公共の拠点づくり」について、もちろん歴史・文化・環境・空間・タイミングによって実現できるものは違いがあるが、根本的な方向性は中央集権から地方分権への流れへと進み、各自治体が自らの特性を生かしたまちづくりを目指す必要がある点においては、考えるべきテーマであると考えます。 SNS やインターネットメディア、IT の発展した情報化社会において、近所付き合いなどといった、基本的で基礎的な地域内のコミュニケーションを取ることが減少しつつある昨今ではあるが、市民と行政が地域一体となってまちづくりに取り組んでいくことが、これからの地方自治体の在り方だと再確認した。それらの行動を積み重ねていくことにより、知立市が競争力のある地方自治体となり、地方分権においてさらに存在感のある市町村へと成長していくことができる可能性を感じた。 地方自治体がより強固なものに成長することにより、国家全体がボトムアップされていき日本自体が国際競争力を持つ新しい存在になれるのではないかと。 現在は、グローバルに発展した情報化社会のおかげで、地域の魅力や PR ポイントを、日本だけでなく、世界中の市民に分かりやすく、瞬時に、効果的に発信することができる。このことは地方分権を達成するために、必要不可欠となっていると考えられる。 実際、ふるさと納税やご当地キャラクターなどといった各地方自治体の努力は、WEB メディアなどを通じて、私たちにも伝わってくるし、それらが本当に魅力的なものであれば、瞬く間に拡散され、その地域の強いセールスポイントへと変貌していく。

知立市としては、市民同士の協働を促し、行政と協力していくことにより、知立市の魅力を再発見していく。そして、今の時代に適したものを市民・行政が意見を出しあい、バランスの良い着地点を見つけることが住みやすい環境を作ることにつながるのではないのでしょうか。 時間はかかるのかもしれませんが、より良い知立、より良い日本は、そのように作られるのだと思います。

そうした流れからやはり今の時代、行政の一方的な場所の提供よりも、市民が何を求めているか、これから何を求めていくかを議論し意見を取り入れていくことは必要不可欠であると考えます。

物理的であれ、インターネット上（SNS など）であれ、市民協働の拠点を作っていくことが有効に働く可能性を大いに有しているということが今回の視察において学べたことである。



※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。